

【編集後記】

今号には、論文三本、研究ノート一本、史料紹介一本の計五本を掲載することができました。執筆者の皆様にお礼を申し上げます。

二〇一九年末から続くコロナ禍はいまだに終息せず、今年七月～九月には、いわゆる第七波の襲来で、それまでとは比較にならないほどの感染者数を数えるに至りました。その後減少に転じましたが、それもつかの間、一〇月下旬より再び増加傾向にあります。この第三十九号が出る頃には第八波の到来が告げられていることでしょう。

この感染者数の増減の繰り返しがいつまで続くのかまだまだ不透明で、不安感が払拭されることはありませんが、人々の対コロナ意識は明らかに変わってきました。疫病の歴史を考える際も、この意識の変化に注意しなければと思います。

ともあれ、しばらくは、過剰に恐れず、かといって決して油断せず、この厄介な疫病に付き合っていくしかないと感じを決めています。

(村田 路人)

令和四（二〇二二）年十一月二六日 印刷
令和四（二〇二二）年十一月三〇日 発行

『神女大史学』 第三十九号

編集者 神戸女子大学史学会

代表者 松下 孝昭

発行所 神戸女子大学史学会

〒六五四八五五 神戸市須磨区東須磨青山二―一

電話（〇七八）七三二―四四一六（代）

印刷所 田中印刷出版株式会社

〒六五七〇八四五 神戸市灘区岩屋中町三一―四

電話（〇七八）八七二―〇五五一（代）